

教会成長研究院

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (3)

二〇一五年七月二十八日付で、日本統一教会（現、家庭連合）元会長の江利川安樂氏が「退会届」を郵送してきました。そこには、文亨進様を中心とした米国のサンクチュアリ教会の下で、日本サンクチュアリ教会総会長兼協会長として出発するごありました。

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。これらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、誌面の都合上、文字数の制限があるため、詳しくは「真の父母様宣言文ウェブサイト (http://trueparents.jp/)」の掲載文や映像をごらんください。（教会成長研究院）

注・本文中、真の父母様のみ言は「青色」で、サンクチュアリ教会側の主張は「茶色」で色分けしています。

【一】「メシヤ」と「真の父母」の概念について

文亨進様は、真のお母様に対し「お母様ご自身を神やメシヤと呼び、従順な対象の位置を離れました。メシヤの血統以外は全てサタンの血統です。サタンの血統である韓氏族の血統を、お母様は神の血統と宣言し、お

父様の玉座に座るようになった」と述べ、お母様はメシヤではないと批判しておられます。

以下、この問題をどう考えるべきかについて応答いたします。

『原理講論』には「メシヤは人類の真の父母として来られなければならない」(二七七ページ)と明記されています。また、八大教材・教本『天聖經』一九一ページの見出しには「メシヤ

は『真の父母』である」とあり、真のお父様は「メシヤは真の父母です」(一九二ページ)と語っておられます。したがって統一原理においては、メシヤとは「真の父」と「真の母」の両者を指して語る言葉であると言えます。

ところが、同じ八大教材・教本『天聖經』一九二ページで、真のお父様は「メシヤは男性です」とも語っておられます。一見すると、「メシヤは真の父母」という説明と、矛盾したことを語っておられるように思われますが、「メシヤは男性です」という言葉も正しく、矛盾ではありません。その点を明確に整理しておかなければなりません。矛盾のように思える同様のみ言として、八大教材・教本『天聖經』には、次のようなみ言があります。

「アダムとエバが偽りの父母になったために、そのような父

において、『私は独り子だ』とイエス様が言われたのです。独り子が出てきたのに、独り子が一人で暮らしたなら大変です。(そこには)独り娘がいなければなりません。それで、独り娘を探して、神様を中心として、独り子と独り娘が互いに好む場で結婚しなければならぬのです。

……それが『小羊の婚宴』です」(二七六～二七七ページ)

このみ言にも「真の父母」すなわち二人という概念と、「一人の男性」という違った概念が出てきます。従来のキリスト教では、イエス様お一人をメシヤであると考えてきました。このように男一人であったとしても、イエス様はメシヤとして来られたと言えます。しかしイエス様が神のみ言を果たさずすれば、一人でその使命を果たすことはできません。

なぜなら、メシヤは「人間始祖」の立場で来られ、アダムとエバが墮落することで果たせなかった創造理想である神のみ言を、人間始祖の立場で成し遂げなければならないためです。それゆえ、メシヤは「真の父母」でなければなりません。真のお父様は「神のみ言とは何か」について、次のように定義しておられます。

「神様のみ言は四位基台を完成することです。……四位基台とは、神様を中心とするアダムとエバが、神様の愛の圏で離れようとしても離れられないように完全に一つとなり、理想的な夫婦となり、彼らが子女を繁殖することによってつくられる神様中心の家庭の基台をいいます」(『祝福家庭と理想天国(一)』四〇二～四〇三ページ)

立てて「真の父母」とならなければならないなりません。したがって統一原理では、メシヤがメシヤの使命を果たすためには、真の父母にならなければならないと主張しているのであり、そういう意味から「真の母」も「真の父」と共にメシヤにならなければならないと考えているのです。

このように、お父様のメシヤ宣言にはお母様が含まれています。真のお父様は、「それはメシヤ思想の核心とは何でしょうか。それは世界を救い、統一させるための思想であり、本然の理想家庭を建設することのできる教えであり、人間始祖が墮落によって失ってしまった位置である真の父母の立場を取り戻すことです」(二〇〇一年一月二十二日、『真の家庭と世界平和』五二二ページ)と語っておられますが、まさしく「真の父母」になるべきだったアダムとエバの立場を取り戻すのがメシヤであり、それが「真の父母」です。

「救世主とは何ですか？ 救世主の責任は、個人を救うことだけではありません。救世主の家庭を救わなければなりません。家庭を救うより救世主の国を救い、それより救世主の世界を救い、救世主の天地、救世主の主入たる神様を解放しなければな

らないのです。

宗教を信ずる人の中に、『私一人、天国に行こう』と言う人がいますが、それは困ります。妻が夫を天国に送り、夫に従っていくと言わなければならぬのであって、夫をほったらかしにして、『私だけ行きます』と言うことはできません。家庭を天国に送り、天国に行こうとするのが統一教会の人々です。……メシヤの責任がそれです。……個人を天国に送り、家庭を天国に送り、氏族を天国に送り……地獄にいるすべての万民まで解放させて天国にみな送り、『神様のすべての悲しいことを私がみな責任を負います』と言う、そのような責任を負って来られた方がメシヤです。……個人メシヤになると言っていて個人の十字架を負うメシヤは必要ありません。家庭メシヤになれないのです。そうならば、家庭メシヤを再び探し求めなければなりません。家庭メシヤになつた

ならば、氏族メシヤを再び探し

求めなければなりません。……このように個人、家庭、氏族を代表して中心になり得る救世主の責任を負った……これがメシヤだということです」(『宗族的メシヤ』五二―五三ページ)

このように、メシヤは個人メシヤとして、まず「男性」として来られます。そのメシヤが、家庭メシヤ、氏族メシヤ、国家メシヤ、天宙メシヤとしての使命を果たし、神様まで解放しようと思えます。そのためには、そこに必ず本然の「エバ」がいなければなりません。すなわち、勝利した家庭メシヤ以上の立場になるためには、「真の父母」でなければならぬということ。ですから、私たちは、メシヤは「真の父母」だと言っています。真のお父様が一九九二年八月二十四日になされた「メシヤ宣言」に真のお母様が含まれているように、お母様も「メシ

ヤ」なのです。

【2】「メシヤの血統は文氏であつて韓氏ではない」という批判への応答

文亨進様は、「メシヤの血統以外は全てサタンの血統です。サタンの血統である韓氏族の血統を、お母様は神の血統と宣言し、お父様の玉座に座るようになりました」と述べ、真のお母様を批判しておられます。

以下、この問題について応答します。真のお母様を批判する人々の多くは、男性だけが「神の血統」を持っていると考える傾向にあります。そこで、「血統」の概念を正しく知らなければなりません。

真のお父様は、男性と女性の両性の「生命」が関わって血統が生じることに、次のように語っておられます。

「生命を見ましたか？ 生命

に触ってみましたか？ 生命体

は見えるけど、生命は分かりません。触ってみることはできません。血統もそうです。血統は夫婦が愛するその密室、奥の部屋で結ばれるのです。そして、精子と卵子が出合つて生命体として結合するとき、血統が連結されるのです」(『ファミリー』一九九五年三月号、二二ページ)

「皆さんが父母から受け継いだ命は、父の精子と母の卵子を受け継いだところから発したのです。その卵子と精子が一つになったところに、愛によって根が生まれて発生したのが、皆さんの子女です」(『ファミリー』二〇〇七年三月号、七ページ)

真のお父様は、父母から子女への生命の連結、すなわち「血統」に対して、それは精子と卵子が一つとなることから出発したと、生物学的に述べておられます。ただし、精子と卵子の生

物学的次元の指摘だけでなく、さらに深く考察され、「愛によって根が生まれて発生した」と愛を強調しておられます。神様の血統に連結するか、サタンの血統に連結するかという問題は、この愛を認識しなければなりません。

真のお父様は、平和メッセージにおいて「生命と愛が合わさって創造されるものが血統です」(『平和神経』二八ページ)、「血統は、父母が子女だけに与え得る特権中の特権です」(同、三九ページ)と語っておられますが、血統は男女による両性の「生命」を抜きにして生じることはありません。すなわち「生命がなくても、愛がなくても血統は創造されません。愛、生命、血統のうち、その実りが血統なのです」(同、二八ページ)とあるとおりです。

ところで、文氏の家系の中からメシヤが誕生されました。しかし、その家系においては、真

のお父様だけが「無原罪」であり、それ以前の文氏の家系の人々、および直接の肉のご両親である文慶裕・忠父様、金慶

継・忠母様も共に原罪を持っておられます。したがって、それらの人々は、厳密に言つと神の血統ではありません。

同じように、イエス様の場合も、イエス様は「無原罪」ですが、その肉のご両親である聖母マリヤやザカリヤには原罪があります。したがって、それらの人々も、厳密に言つと神の血統ではありません。

それゆえ、厳密に表現するならば、神の血統の始まりとなるべきであつたおかたは、第二アダムであるイエス様ご自身だけであり、そして神の血統の始まりとなられたおかたは第三アダムである文先生ご自身であると言わなければなりません。

したがって、人類歴史において神の血統の出発点となつたお

ある真の父母様であり、そこから神の血統が発したのです。

すなわち、神の血統が発する際には、「真の父」だけでなく「真の母」がいなければなりません。そこには、人間始祖の立場としてのエバがどうしても必要なのです。イエス様は、新婦(真の母)を立てられなかったために、神の血統を出発させることができませんでした。したがって、イエス様は神の血統の始まりとなるべきであつたおかたという立場で、その生涯路程を終えられました。

しかし、真のお父様の場合は、人類の真の母である韓鶴子夫人を立てることができたので、神の血統の始まりとなつたおかたとなられ、祝福結婚によつて人類を重生させる「真の父母」となりました。したがって、「文氏」「真の父」と「韓氏」「真の母」のおふたりによつて「神の血統を出発させていかれた」というのが、正しい理解であり、

より正確な表現であると言えます。

したがって、サンクチュアリ教会を支持する人々が主張する「メシヤの血統はあくまで文氏であり韓氏ではありません」という表現は、いろいろな意味で正しいものとは言えません。

一方、「メシヤの血統以外は全てサタンの血統です」という主張は、正しいものではありませんが、厳密な意味で使用すべき言葉です。すなわち、メシヤが「真の父母」となつて神の血統を出発させるまでは、人類歴史においては、全ての人々がサタンの血統、すなわち墮落の血統だったのであって、それはメシヤを誕生させた文氏の家系においても同じであることを踏まえ、慎重に「発言」しなければならぬと言えます。

したがって、文亨進様がなさる批判は不正確な内容であり、誤りです。